

留学先：マカオ大学

氏名：白川咲香

### 【はじめに】

みなさん初めまして。福井大学国際地域学部・国際地域学科グローバルアプローチ2年の白川咲香です。1月から12月までの1年間マカオ大学に交換留学生として留学させていただくことになりました。福井大学生としてはマカオ大学に留学する初の交換留学生であり、国際地域学部としても最初の留学生となるのでこれから1年間、本報告書を通してマカオの町や文化、マカオ大学での生活や日々の気づきなど様々なことを発信していきたいと思います。



前セメから留学している同い年の日本人と観光に

行った際の（一番左が私です）

### 【マカオってどこ…？】

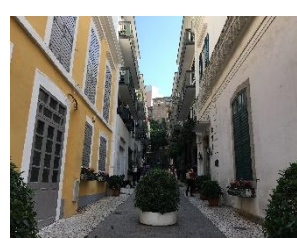
みなさんマカオがどこにあるかご存知でしょうか。留学前、マカオに留学するということを友達などに話すと「マカオってどこにあるの？」と聞かれることも多かったので、まずマカオについて簡単に紹介したいと思います。マカオは現在中国の特別行政区として独自の法律が適用されているため、中国本土での様々な規制も適用されません。マカオ半島と、タイパ・コタイ・コロアンという3つのエリアが1つの島となっているものから構成されていて、香港からフェリーで約1時間の距離にあり、中国大陸とは広東省の珠海市に接しています。そのため週末や授業のない日に香港や中国本土に行くことも気軽にでき、中国本土出身の子たちが毎週、スーツケースを持って週末に実家に帰る光景もよく見かけられます。マカオはかつてポルトガルに支配されており、貿易の拠点として栄えていました。そのため町にでると西洋の文化が色濃く残っている中で、中国の文化とも融合していて不思議な雰囲気を感じます。公用語は中国語の方言の一つである広東語とポルトガル語が指定されており、町中の標識などには両者が用いられていますが、ポルトガル語を話す人は非常に少数です。また、マカオはこれまで世界最大であったアメリカのラスベガス抜き、世界一のカジノ都市となり、IRと呼ばれるホテル、ショッピングモール、飲食店、劇場、カジノなどが併設する超巨大施設である統合型リゾートがたくさん存在し、それぞれ様々なテーマのもと運営されています。



オールドタイパ



美しい模様の壁



カラフルな建物



IR施設のひとつ

### 【マカオ大学は中国本土…？】

タイパからバスで海底トンネルを抜けるとマカオ大学に着きます。（歩行者用の海底トンネルもあるので大学から歩いてタイパへも行けます。）つまり、実はマカオ大学は横琴島と呼ばれる中国本土の島にあります。そのためマカオ大学のキャンパスと中国本土の境目には壁がありますが、中国本土側の建物がキャンパス内の建物かと思ってしまうくらいすぐそばです。2014年に現在のキャンパスへと移ったため、とにかくキャンパス内が広くて大きいのですが、建物のデザインや緑など景観が洗練されていて美しいので、移動中も遠いなあとあまり感じません。ヨーロッパの大学などの



学内の様子



こんなにひろい！

ように大学が町をつくっているわけではありませんが、キャンパス内には湖？池？川？があり、いくつものバスケットコート、テニスコート、ボルダリングの壁、ジム、モール、レストランなどなんでもあるため、学外へ出なくても十分に生活できます。これら学内の施設に関しては本報告書で時節詳しく紹介していきたいと思います。キャンパス内専用のシャトルバスもあるほどで、移動には非常に時間がかかります。マカオ大学には人文学部（FAH）、経営学部（FBA）、教育学部（FED）、医学部（FHS）、法学部（FLL）社会学部（FSS）、工学部（FST）の7つの学部があり、約10000人の学生が学んでいます。どこをとっても福井大学と比較して“大きい”と感じます。

### 【マカオ生活スタート】

1月2日に関空を出発し約5時間でマカオに到着しました。私は今回初めてマカオに来たので、到着した際たくさんのIR施設がきらきら輝いているのを初めて見て、これからこのマカオでの留学生活がいよいよ始まるのだなという気持ちでとてもわくわくしたのを覚えています。空港には大柳さんのバディーと日本人インターン生がピックアップに来てくれました。マカオ大学では1stセメスターが8月中旬、2ndセメスターが1月上旬に始まり、5月がテスト期間でテストが終われば約2か月半～3か月の



留学生たちと学内で飲茶



日本人留学生たちとすき焼きパーティー

夏休みとなります。私はマカオ大学での2ndセメスターからの留学開始だったため、留学生（特にアジアからの留学生）は少ないなあという印象を持ちました。やはり1stセメスターから留学開始の学生が多いので、大学全体としてのウェルカム感が少なく残念に思ったけれど、少人数であるがために今期からの留学生みんなと仲良くなりやすいのはよいことだなあと思いました。オリエンテーションの期間にはキャンパスツアーや飲茶（中国のお茶を飲みながら中華料理を食べる）に参加して他の留学生たちと交流しました。マカオ大学には学部生用の寮が11個、研究生用

が4つあり、留学生はみな寮に住んでいます。また、学部1年生は必ず寮に住まなければいけないそうです。寮にはそれぞれマカオで栄誉ある人たち（カジノ王）の名前が付けられていて、私の住む寮はStanley Ho East Asia College といってマカオで一番のカジノ王の名前が付けられています。寮の部屋は二人部屋でベッド、机、棚、クローゼット、冷蔵庫がありとても快適で不自由なく過ごせています。私は福井大学の同じ学部から一緒に留学している大柳さんと同室で、隣の部屋とシャワー・トイレ・洗面所を共有しています。マカオ大学に到着した当初、部屋にベッドはあるものの、まくらも布団もなく、2-3日バスタオルだけで寝ました。とても寒くて日本での生活の快適さをひしひしと実感した出来事でした。



散らかっているのですが、寮の部屋の様子です

1月の報告は以上になります。次回は授業やマカオの町についても紹介していきたいと思います。



寮の同じフロアの方たちとコロアソへ



別の日に再び飲茶へ



かわいい街並み（インスタ映えスポット）



フィリピン人とモンゴル人とパーへ



1月でも町中クリスマスモードのまま